

三心を磨く

学校だより NO. 34

平成29年2月24日(金)発行

須坂市立 東 中学校

文責：奥 幸雄(教頭)

<http://www.azuma-school.ed.jp/>

2月の校長講話 2月22日(水)

「立つ鳥 跡を濁さず」

みなさん、おはようございます。

2月も後半となり、卒業式まであと3週間となりました。3年生は、前期選抜試験も終わり、後期選抜試験に向けて、最後の追い込みを頑張っていることと思います。不安もあるかと思いますが、今は、絶対合格するんだという強い気持ちをもって、やりあげることが大切です。今まで頑張ってきた自分を信じて、最後の最後まで頑張ってください。

さて、3学期に入り、みなさんの生活が変わったと思うことが、いくつかあります。まず、みなさんの清掃が変わりました。校内を回っていると、一人一人が静かに自分と向き合って清掃をしている姿が、多く見られるようになりました。教室で机を先に運んでから黙想を行い、その落ち着いた気持ちのまま清掃に入れるようになった結果だと思っています。また、挨拶が変わってきました。今までは、こちらから声をかけないと、挨拶をしてくれなかった人も、私の姿を見ると、遠くからでも挨拶をしてくれるようになりました。これも、生徒会のみなさんが、毎朝、玄関前に立って、あいさつ運動を展開してくれている成果だと思っています。

更に、昼休みに「歯磨きタイム」を設けました。本校の虫歯率は、県や須坂市と比べると多少低くなってはいますが、決して良い状態とは言えません。毎日、きちんと歯磨きをして、来年度は、虫歯率が5%は低くなるようにしましょう。

このような「清掃」や「挨拶」、「歯磨き」は、小さいことかもしれませんが、3学期の始業式で私が話した、2年生は、自分自身を磨きつつ、東中学校を、そして東中学校生徒会をどうするのかを、固めていってくれている姿だと思っていますし、1年生は、一段と力をつけるとともに、新入生に対して、自分は何ができるのかを考えてくれている姿だと思っています。これは、2年生の生徒会の役員のみなさんが頑張ってくれている成果であると同時に、それぞれの学年の、一人一人の足跡が自分自身を創るとともに、東中学校を創ってくれていることを、大変うれしく思います。いつ誰が見てもはずかしくない清掃、挨拶、生活にしていきましょう。

今日は、終わり方や締めくくり方である「立つ鳥 跡を濁さず」ということについて、お話しします。

ある旅人が、長い旅を続けていた時でした。ふと道端の清水の湧き出ている木陰に来て、「ああ、疲れた。おいしそうな水があるので一杯飲んで休んでいこう」と、その清水を手ですくって飲みました。そのうち手持ちぶさたになったので、道端にあった石ころを拾って、その清水の湧き出ているところに投げ込んで「ボン」「ボン」と音がするのを楽しんでいました。

しかしそれにも飽きたので、その場で横になりあたりを見ていました。するとその時、清水のところに小さな鳥が一羽飛んできて止まったのです。旅人は「おやっ」と思いながら見ていると、小鳥ものどが渴いたのでしょうか、小さいくちばしで、清水をうまそうに飲み始めました。旅人がはっとしたのはそのあとです。なんと小鳥は、水を飲み終わったかと思うと、今度は、そこに浮いていた木の葉っぱや、ごみくずなど、一つ一つをくちばしではさんでは取り除いているではありませんか。小鳥はしばらくその動作を繰り返した後、飛び去っていきました。じっとその様子を眺めていた旅人は「なんと感心な小鳥だろう。おそらく、あまりに水がうまかったので、自分だけではもったいない、仲間がまたやってきたらこの水を飲むかもしれない。そうしたら、また同じように、おいしく飲んでもらおう、とでも思ったのか」と思いました。そしてそこまで考えたとき、自分はさっき、この水を飲んだ後、石ころを投げて水を汚していた、その行為は小鳥にさえも負けてしまっていたのだ、と思うと、自分がみじめに思えてならなかったのです。そして、昔の人が言っていた「立つ鳥、跡を濁さず」という言葉の深い意味をつくづくかみしめると、急いで清水に投げ込んだ石を拾い上げ、ついでにあたりもきれいにしてその場を去ったということです。

この話は、私たちに、終わり方や締めくくり方の大切なヒントを与えてくれています。その場所と時、そして人と別れ去っていくとき、奥ゆかしく慎ましい心遣いほど、大切なものはないと思います。その人らしさが最も発揮される時です。

みなさん、みなさんとともに全校で一生涯懸命作ってきた平成28年度の東中学校の生活も、あと3週間となりました。全校一人一人が、お世話になった校舎、仲間、先生方、家族、お世話になったすべてのものに感謝し、この3週間でそれを行動で表し、慎ましい締めくくりの時としていきたいと思います。

「継続は力なり」斜面ノート



毎週全校生徒の自主学習の課題としている斜面ノートから次のような感想がありました。

「斜面をずっとやってきて、斜面の感想を書くなど、文章力もついたり、ニュースを知ることでもできました。そして1冊終わると達成感がありました。また1からスタートをしっかりと決めたいです。」毎回写して感想を書いて提出していたAさんの感想です。ずっと続けてきて1冊終了する生徒が増えています。